

3. 科学わくわくプロジェクト研究センターの設置

広島大学では、平成15年4月から、新たに「プロジェクト研究センター」を設置することとなり、「科学わくわくプロジェクト研究センター」も、最初に設置される41プロジェクト研究センターの一つとして選定されました。

「科学わくわくプロジェクト研究センター」は、広島大学大学院教育学研究科の林武広教授を研究代表者として、学内の教員と学外からの客員研究員によって構成されるユニークな組織です。

科学わくわくプロジェクトは、この「科学わくわくプロジェクト研究センター」によって、推進されます。

その主な推進体制は次のとおりです。

- 研究代表者： 広島大学 大学院教育学研究科 林 武広 教授
- サイエンスレクチャー： 広島大学 地域連携センター
- 科学塾，ジュニア科学塾： 広島大学 大学院理学研究科 大杉 節 教授（塾長）
- 小学理科ネット： 広島大学 大学院教育学研究科 林 武広 教授
- わくプロ・ウェブサイト： 広島大学 大学院教育学研究科 林 武広 教授
- 事務局： 広島大学 地域連携センター

広島大学 プロジェクト研究センター設置の発表文書（H15.3.18）

広島大学では、本学の特徴ある研究を広く学内外の人々に知ってもらうこと、及び自立的で自由な発想の下で展開される学部や研究科の枠を超えたプロジェクト型の研究活動を推進し、一層の活性化を促すことを目的とした「プロジェクト研究センター」を設置することとしました。

このような趣旨に合致するプロジェクト研究センター構想を学内で公募した結果、全学から65件の申請があり、学内審査会の審査を踏まえ、3月18日に開催の評議会において、41件のプロジェクト研究センターを4月1日から設置することが報告されました。

このプロジェクト研究センターの設置に伴い、以下のような効果が期待できます。

（1）本学の研究活動を学内外に見えるものとするとともに、社会のニーズに応じた先端的研究をスクラップ&ビルドが可能な研究組織で実施できる。

（2）学内外に周知された一定規模の研究組織をもつことにより、大型の外部研究資金獲得を容易にし、本学の学術研究の活性化に寄与できる。

（3）『世界トップレベルの特色ある総合研究大学』を目指す広島大学の研究戦略の一環として、将来の「21世紀COE」候補と成り得る研究プロジェクトチームを育成できる。

（4）大学院の学生確保につながる事が期待できる。

なお、このプロジェクト研究センターの設置に当たっては、原則として定員措置や研究場所の供与は行わず、構成する教官等が自ら外部資金等を獲得した上で研究を進めることとしています。また、プロジェクト研究センターの設置に伴い期待できる上記効果のうち

（1）をより一層促進するために、センターの研究活動を学内外の人が広く知ることができるようプロジェクト研究センター専用ホームページを開設する予定です。

「広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター」について

平成15年4月1日設置

研究代表者	広島大学 大学院教育学研究科 教授 林 武広				
研究組織及び構成メンバー	○ 研究員				
	大学院教育学研究科	教 授	林	武	広
	〃 附属教育実践総合センター	教授 (副学長)	高	橋	超
	〃	助教授	磯	崎	哲
	大学院理学研究科	教 授	大	杉	節
	大学院先端物質科学研究科	教 授	大	木	至
	地域連携センター	教 授	橋	本	康
	〃	助教授	匹	田	男
	〃	助教授	山	本	篤
	〃	助教授	山	本	平
	○ 客員研究員				
	板橋さざなみ幼稚園	園 長	難	波	元
	府中町立府中北小学校	教 諭	土	井	実
	福山市立宜山小学校	教 諭	栗	田	徹
	大竹市立小方中学校教諭	教 諭	河	北	久
	府中町立府中緑ヶ丘中学校	教 諭	櫻	井	弘
	福山市立駅家中学校	教 諭	占	部	一
	広島市立美鈴が丘高等学校	教 諭	池	永	弘
	広島市立基町高等学校	教 諭	堀	江	寛
	国立教育政策研究所教育課程研究センター	教育課程調査官	呉	屋	博
	広島市こども文化科学館	館 長	金	本	治
	〃	専門員	加	藤	孝
	(財) マツダ財団	事務局長	森	川	美
	〃	事務局長代理	山	賀	一
	〃	事務局長代理	永	松	泰
	〃	事務局長代理	永	松	貴
	〃	事務局長代理	永	松	文
研 究 概 要	<p>子どもが科学にわくわくするような機会の提供方法及び教育関係者の情報交換・共有のネットワークづくりなどに、大学の知的資源（人材、施設・設備）を活用して学校外において民間主導で実施する事業の可能性について、実践を通じて研究する。また、このような目的に即した民間団体の事業への支援方策についても研究する。</p> <p>具体的には、地元の民間財団であるマツダ財団の支援を得て下記の事業を実施し、その事業の効果評価を通じて、効果的な事業実施のあり方について研究する。</p> <p>(研究事業)</p> <p>① サイエンスレクチャー 単なる講演会ではなく説明用の道具・方法などに工夫したレクチャー</p> <p>② ジュニア科学塾，科学塾 同一対象に継続的に考える場を提供する1テーマ4回を年2回のシリーズでの科学塾。ジュニア科学塾は中学生を，科学塾は高校生を想定。</p> <p>③ 科学教育ネットワーク 科学についての教育に関心のある教員等の情報交換のネットワーク</p> <p>④ 支援事業 わくプロの趣旨に沿った民間事業について事業費を支援</p> <p>(研究内容)</p> <p>① 子どもに単なる興味ではなく科学する心を持たせるための事業のあり方</p> <p>② 大学の知的資源を活用した学校外での民間主導での事業の可能性</p> <p>③ 民間団体等が実施する科学学習事業への効果的な支援のあり方</p> <p>④ これらの事業についての効果測定の進め方</p>				
設 置 期 間	平成15年4月1日 ～ 平成20年3月31日				